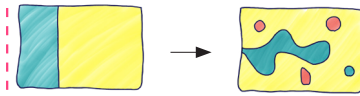


ハナマキ・ナレッジ・ commons

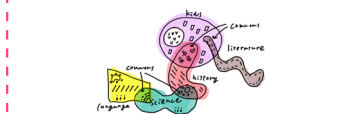
「多様な境界面」と「地続きな立体街路」によって「市民ライブラリアン」が次々に息吹く、「生きた知」の複合拠点となる図書館を提案します。必要なのは、各機能がいかに出会い直すことができるか、その調整としての設計です。

●境界面を増やすゾーニング



コンパクトに分けられた運営・利用部門との間には最低限の境界面だけがあります。運営部門内のまとまりは維持しながらも、形状を解き、引き延ばすことで、**境界面の種類を増やしていきます**。多様な境界面は、運営・利用者の二者間にあわいを生み、**新たな関係性のきっかけ**となります。

●様々なコモンズが生まれるプラン



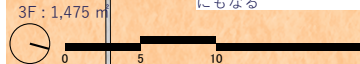
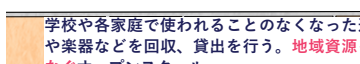
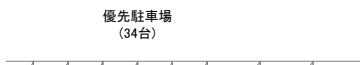
各分野のユニークな書架閲覧空間が数珠状に連なるとき、交わり、重なる場に「**共に知り・考え・見つけ・生み出す**」共同体としてのコモンが生まれます。



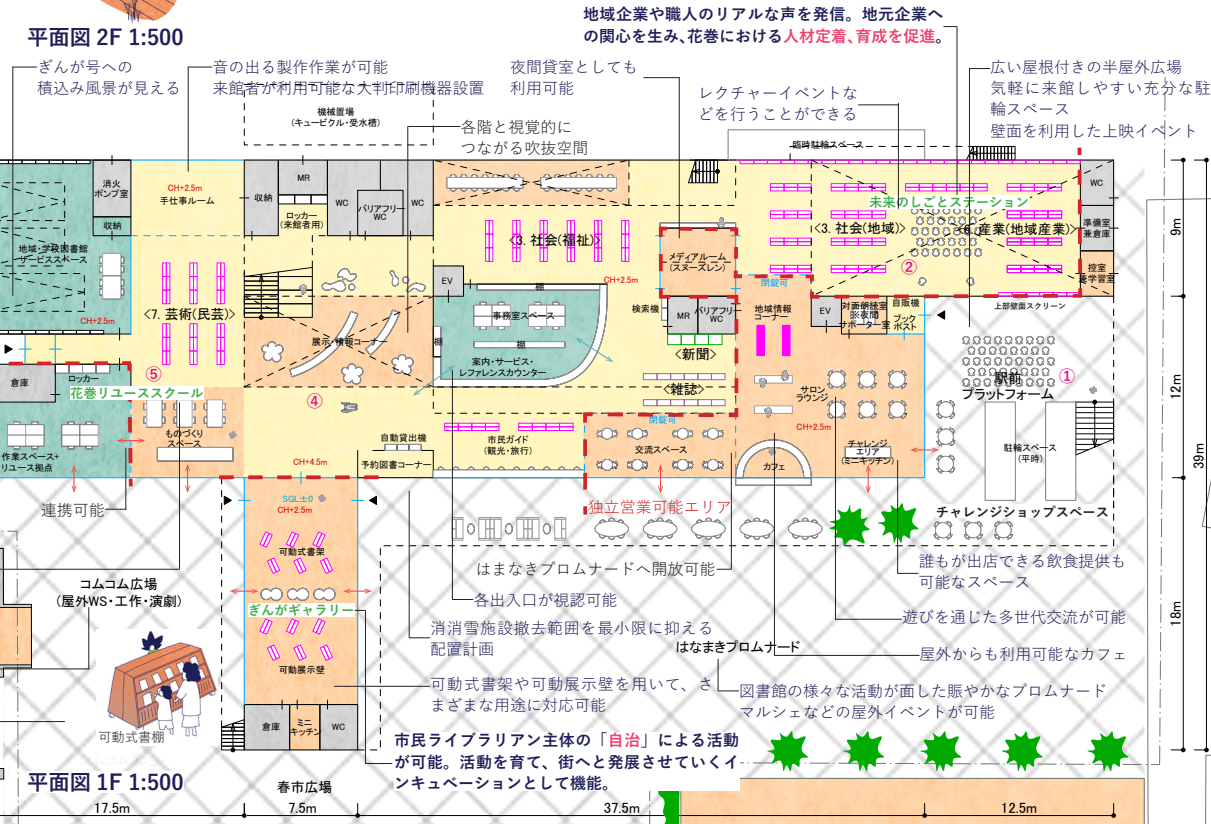
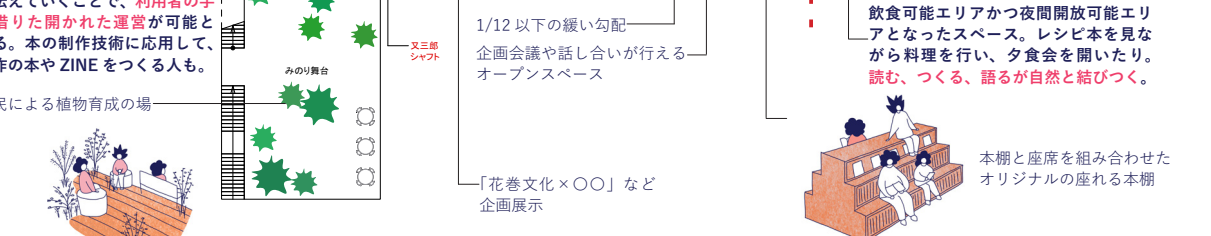
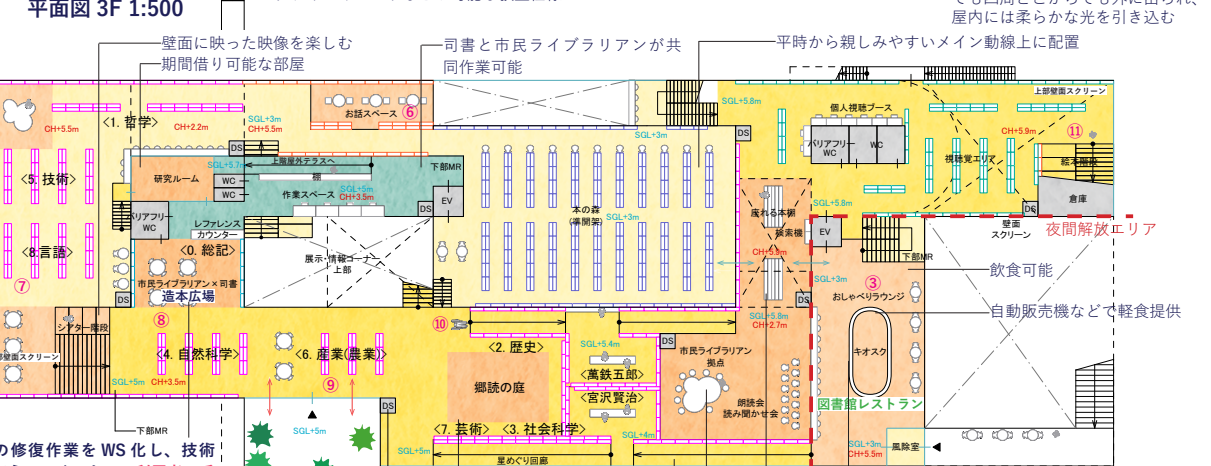
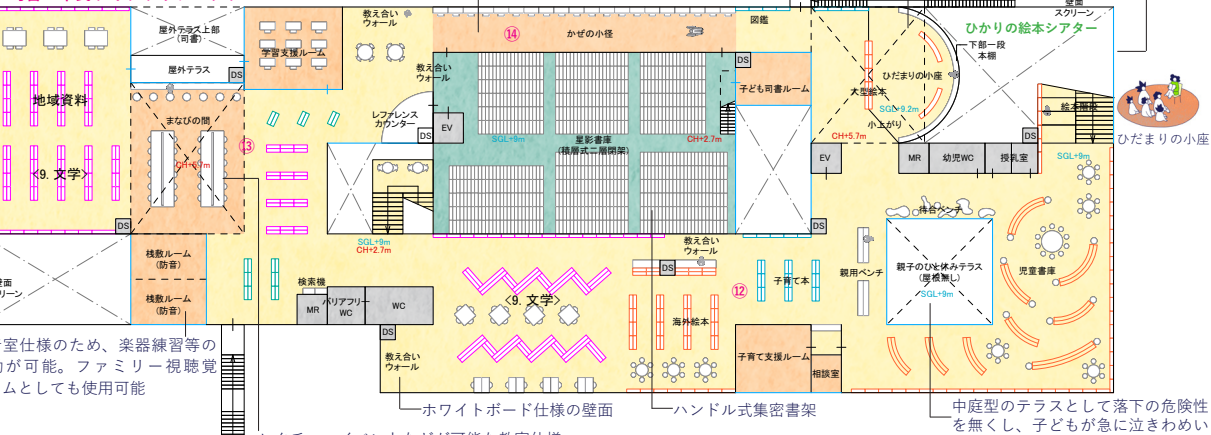
書架とコモンの連続は**立体街路**となって、閉架書架や管理スペースに巻きつき、さまざまな**コミュニケーションが発生する場=境界面**をもたらします。

●市民ライブラリアンと生きた知

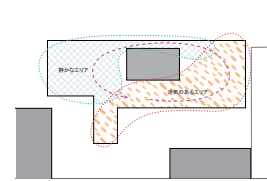
コモンと境界面は、利用者と図書館を繋ぐ**市民ライブラリアンの活動拠点**となり、**図書館を能動的な活動の舞台**へ書き換えていきます。図書館に長年蓄積された情報は、**今を生きる人の生活**そのものと結びつき、「**生きた知**」となって、花巻の街を彩っていきます。



西日を間接光として利用した、明るく落ち着いた閲覧エリア
小上がりとなった落ち着いたエリアで絵本や紙芝居の読み聞かせ
プロジェクターを用いて絵本を壁面に拡大照射し、みんなで同じ作品を楽しむ。オリジナルの絵本を制作して上映することも。**本と自分自身を地続きに繋ぐ体験。**

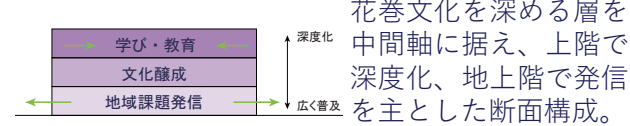


●平面ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)

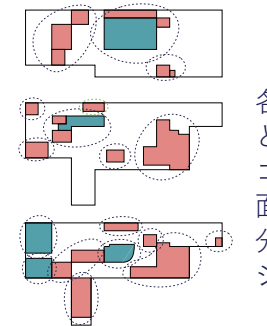


駅側は賑やかな、駐車場側は落ち着いた活動が分布するゾーニング。渦巻く回遊動線上に両者の性質が交互に現れます。

●断面ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)

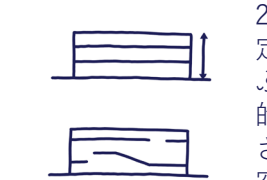


●活動ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)



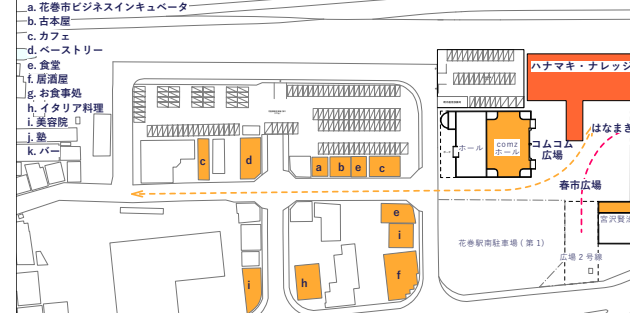
各階の運営部門は利用者部門と極力境界面をもつよう配置。コモンは隣接・近接する境界面を重ね合わせた場として、分野を横断したコミュニケーションの拠点となります。

●最低限の操作 評価 (1)(3) テーマ (ウ)



2層目に2種類のレベルを設定し、段状・スロープ状に結ぶ最小限の操作により、一般的な3層建築と同規模ながら、さまざまな気積=形をもった空間を実現します。

●文化活動の本館として 評 (1) テーマ (ア)



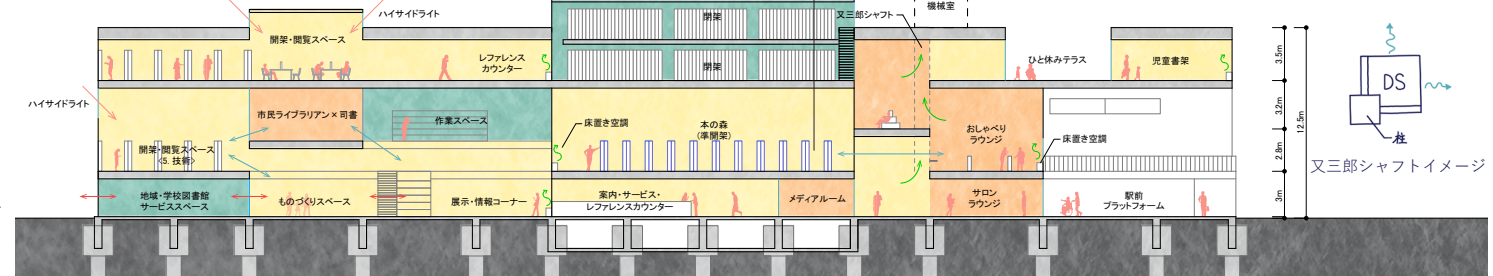
●構造・設備断面計画 評 (2) テーマ (イ)

【構造計画】鉄骨造とし、**小断面の流通材**を前提とします。**経済性に優れたスパン割**で構成し、重量物が集中する箇所は、**5m 程度の短スパン**で無理なく支え、空間のアクセントとして活用しながら、全体の鉄骨量を抑え、**低コストかつエンボディドカーボンを抑える環境**に配慮した計画とします。各メンバーを最小限に、階高を抑えることで距離感を低減し、連続的な空間を実現します。

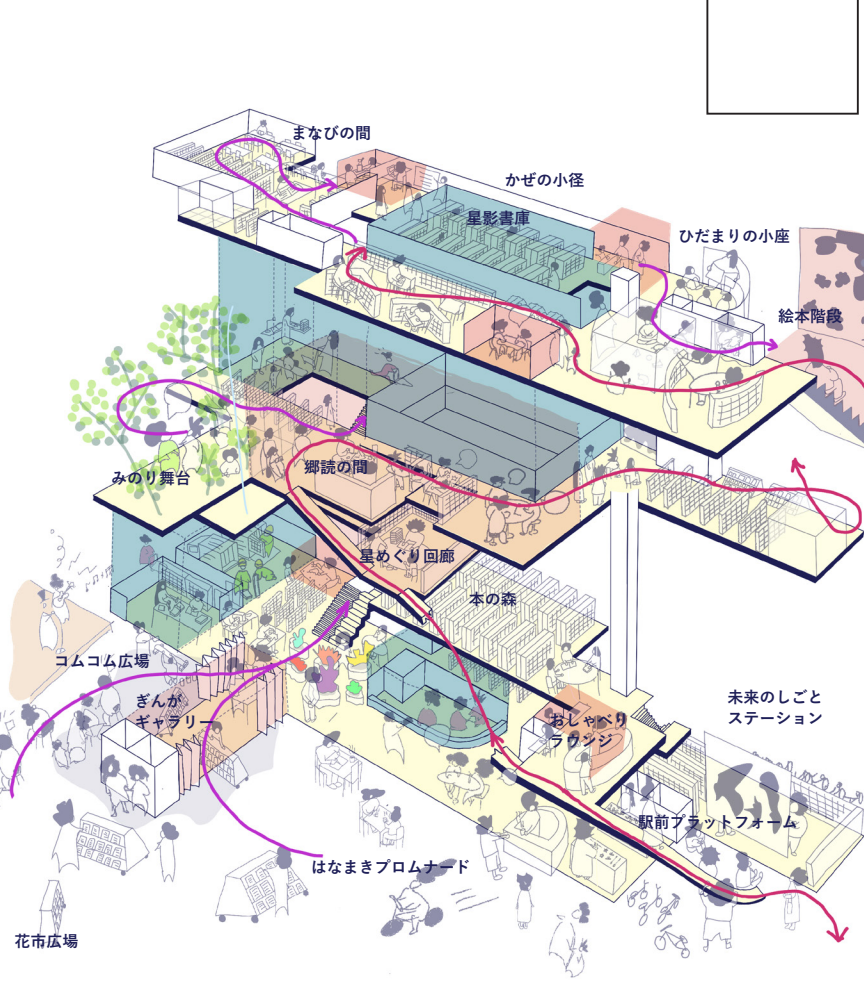
【設備計画】階高を抑え、各空間の気積をコンパクトにします。視線の抜けを確保しながらも、吹抜空間は最小限として、空氣的に縁を切り、各部の空調負荷を低限します。床置き空調機を基本とし、暖房時は天井と床面付近から室内空気を取り込み、低い位置から吹き出す空調方式とすることで、特に冬季において、上下温度差を抑えます。柱とDSを抱き合わせた**又三郎シャフト**は各空間からの換気経路であり、壁柱を兼ね架構のメンバーや鉄骨量を抑える役割も果たします。

実施設計時、地盤調査をもとに最適な基礎構造を検討

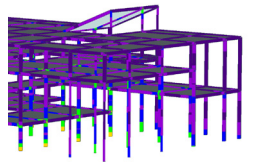
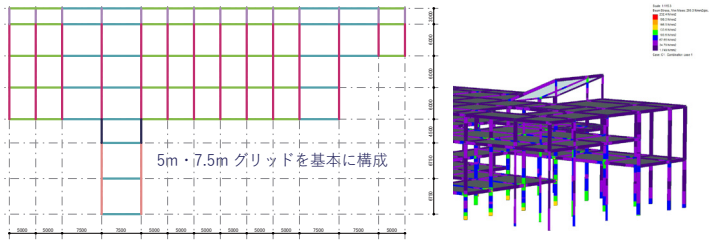
(準開架) 積層棚が増床可能な気積を確保



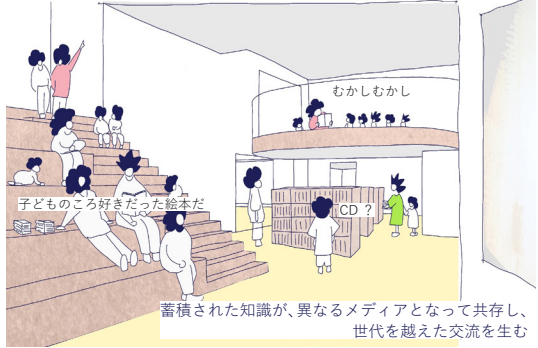
●街と地続きな立体回遊空間



お祭りに適した既存広場の非日常的なスケールを、**日常的なスケールの集まりに分節**。緩やかに連ね直し、新たに**4つの広場**を整備します。それぞれの広場は周辺既存施設と呼応し、「花巻駅のもう一つのプラットフォーム」、「商店街のような街路」「市が立つ程よく囲われた空間」「舞台・制作空間」となって、花巻駅前に新しい賑わいを創出します。



⑪絵本階段×視聴覚書架×読み聞かせ



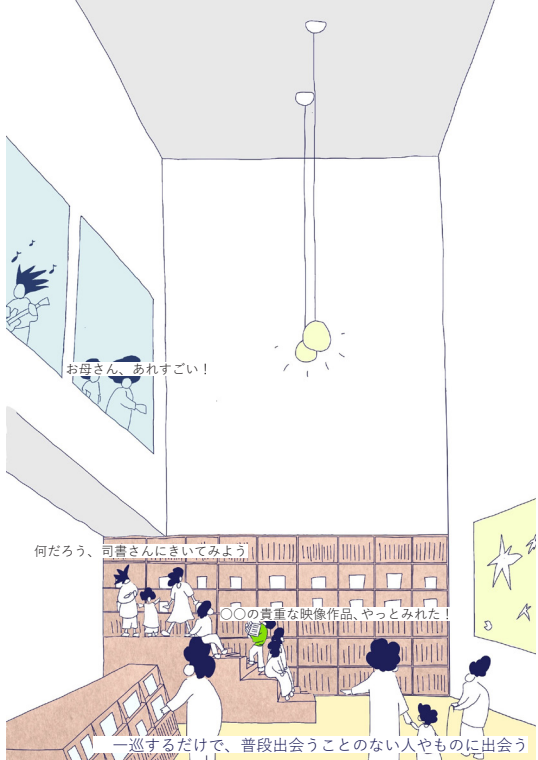
⑩星めぐり回廊×郷読の間×市民ライブラリアン



⑧レファレンスカウンター×市民ライブラリアン×作業スペース



⑦シアター階段×壁面上映×栈敷ルーム×閲覧スペース



⑫親子のひと休みテラス×子育て支援×子ども書架×教え合いウォール

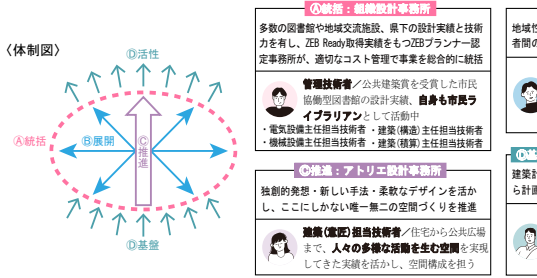


●市民ライブラリアン 評(1) テーマ(ア)

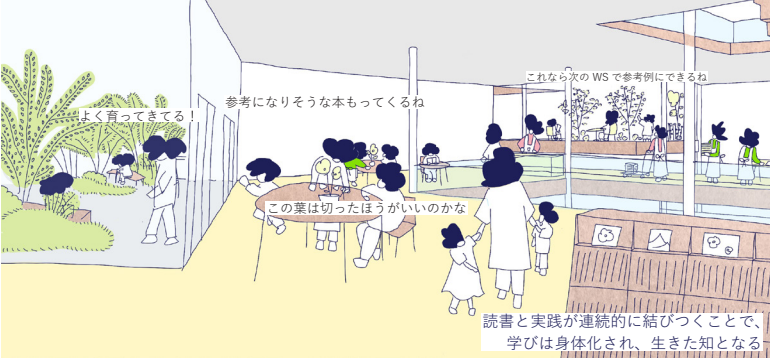


●多様な境界面を内包したチーム体制 評(3) テーマ(イ)

公共図書館の実績を多数有する組織設計事務所統括のもと、空間構成力・地域性を活かす場づくり力を有した建築家と、東北の公立美術館で館長を担う建築計画研究者による協働設計により、多様な境界面を内包した体制とします。



⑨自然科学×みのり舞台×作業スペース×司書・市民ライブラリアンテラス



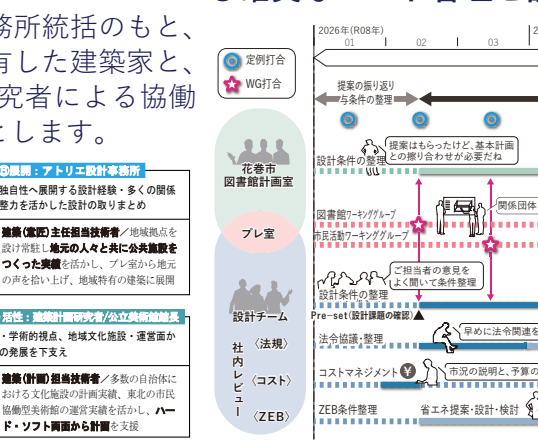
⑬星影書庫×レファレンスカウンター×教え合いウォール・学習支援ルーム×かぜの小径×まなびの間



●花巻の新しい顔 評価(1) テーマ(ア)(ウ)

これからの公共には、サービスの消費者/提供者の枠を超えて、公と民とが手を取りあう「協働」「共営」が必要不可欠となっています。そんな図書館づくりの推進のために、「市民ライブラリアン」を提案します。市民ライブラリアンは、自分自身の興味関心から、一歩だけ図書館のなかに入り込む能動的な人たちです。図書館は本との出会いの場ですが、これからは、本を選んで誰かに薦めたり、本について話し合ったり、本をみんなでつくったり、さまざまな本と人、人と人のコミュニケーションの場となるでしょう。市民ライブラリアンが主体的に企画・運営に関わり、この図書館を使い倒す活動を展開していきます。さらに、本をきっかけとして、生活を肯定して深化させる花巻ならではの活動へとつながり、図書館の養分を吸収した人たちが、その活動という苗をまちへと拡げていくでしょう。そうして、自分たちの図書館が作り出されていくとともに、これからの花巻を育てていく人たちをつくり出していきます。

●確実なコスト管理と品質管理を実現する設計工程 評(3)



⑭かぜの小径



●花巻の新しい顔 評価(1) テーマ(ア)(ウ)



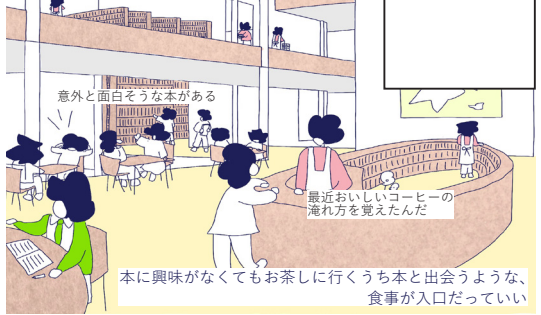
⑮展示情報コーナーを見下ろす



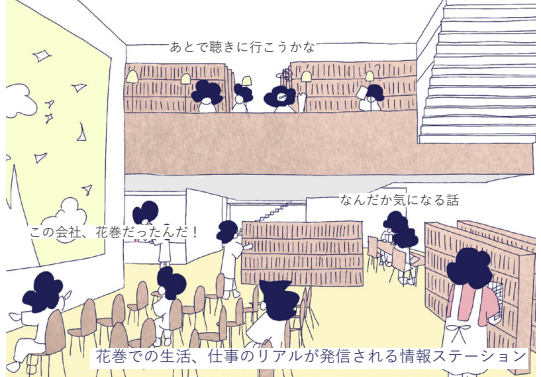
●花巻の新しい顔 評価(1) テーマ(ア)(ウ)



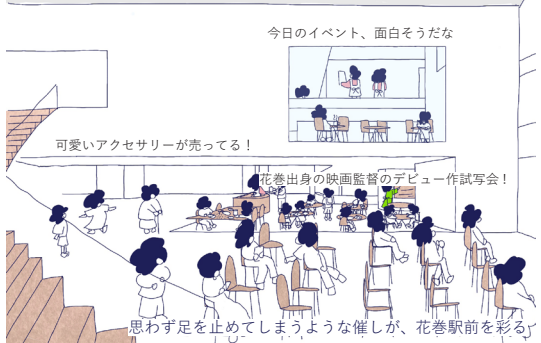
③おしゃべりラウンジ×本の森×座れる本棚



②未来のしごとステーション



①駅前プラットフォーム×チャレンジショップ



⑥お話スペース×書架×研究ルーム×司書・市民ライブラリアンテラス

